

1等米比率90%以上を達成しよう!!

コシヒカリの播種は4月25日頃から! 田植えは5月15日を中心に

★育苗計画の目安 (育苗日数は20日間以内を目安に)

消毒	浸種	播種	田植日	出穂期
4/6	4/7	4/18	5/10	8/1頃
4/14	4/15	4/25	5/15	8/4頃
4/22	4/23	5/2	5/20	8/7頃

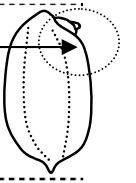
今年は、種子の休眠がやや深いため、
浸種の日数は平年より長めとする

★育苗のスケジュールと作業内容

作業	温度管理	作業管理のポイント
4/14 ↓ 4/15 ↓ 4/24 ↓ 4/25 ↓ 4/27 ↓ 4/29 ↓ 5/15	比重選 種子消毒 浸種 催芽 播種 出芽 搬出緑化 硬化 田植え	<p>① 比重選で種籾を厳選 ~病気や発芽不揃いをしっかり予防~ ・硫安による発芽障害を防ぐため、比重選後の種籾はすぐに水洗いを行う</p> <p>② 種子消毒を徹底 ・種子消毒は、モミガードC水和剤200倍液で24時間浸漬(温度管理が重要)</p> <p>③ 浸種は 10~15℃の水温を確保 ・積算温度 早生、中生品種 110~120℃ 晩生品種(てんこもり等) 130℃以上 を目安にする ・2日に1回は水を交換し、酸素不足を防ぐ 水温が上がり過ぎないように、置き場に注意(低温にも注意!) ・後半は必ず芽の動きを確認し、動きがあれば浸種を終了する</p> <p>④ 芽の長さをこまめにチェック ・均一に催芽するため1日2~3回、袋を反転させる ・均一に播種するために、種籾の水切り(脱水)は十分に行う(籾が手に付かない程度まで陰干しを行う)</p> <p>⑤ 播種量は乾籾で箱当たり 120g(催芽籾 150g) 厚播きは苗質が悪くなる ①温度が正確か 事前に確認 ②育苗器の温度設定を確認</p> <p>⑥ 育苗器の温度をこまめにチェック (サーモスタットの使用前点検は必ず行う!)</p> <p>⑦ 芽が 1cm 程度に揃ったら搬出 ・搬出時には、覆土を落ち着かせるためかん水する ・緑化したら速やかに被覆資材をはずす ・日差しがある日は、朝から換気を徹底する ※低温が予想される場合は搬出を見送るか、かん水せずに被覆資材で保温につとめる</p> <p>⑧ かん水は朝にたっぷりを行い、日中は床土の乾きに応じて行う ・田植えの7日前からは、昼夜ともに換気し、十分外気に慣らす</p>

【比重液の作り方(水10ℓの場合)】

	比重	硫安
うるち	1.13	2.5kg
糯・酒米	1.08	1.5kg



春の土づくり ~ 収量・品質の向上は、まず土づくりから ~

珪酸質資材及び有機物の施用

- ・珪酸には、登熟歩合の向上、割籾防止の効果があります。耕起前に珪酸質資材を施用しましょう(表1)。
- ・稲体の活力維持のため、発酵ケイフンなどの有機物を施用して地力の維持・向上を図りましょう(表2)。

深耕による作土層の拡大

- ・作土層を深くすると、根圏が広がり、深く伸びた根が収穫まで稲の活力を維持し、収量・品質が向上します。
- ・耕起は、トラクタの速度を落とし、ロータリーの回転数を遅くして、作土の深さを15cm以上(現状より3cm程度深くする)確保しましょう。

表1 主な珪酸質資材施用の目安

資材名	施用量(10a当たり)
大地の祭りS	100kg
シンキョーライトP	60kg
パワーグリーン	60~100kg

表2 堆肥施用の目安(春施用)

堆肥名	施用量(10a当たり)
発酵ケイフン	75~100kg

注) 春施用する場合は、基肥チッソ量を1~2kg/10a程度減肥する。



春の農作業安全運動(4/1~5/31) まずはワンチェック ワンアクションで農作業安全